

国語 第1学年 よくきいて、はなそう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。話し手が知らせたいことを聞き、感想や質問を返す。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「よくきいて、はなそう」 教材名「よくきいて、はなそう」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（A(1)エ）

話し手が知らせたいことを聞き、感想や質問を返す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①話し手が知らせたいことを聞き、感想や質問を返す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

話し手が知らせたいことを聞き、感想や質問を返す。この教材では、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。想定する難しさは、一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。短い話から聞いたことを確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○短い話から聞いたことを確かめる。もっと知りたいことを選ぶ。相手の返答を聞いて確かめる。聞く前後で分かったことを比べる。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったとこ

ろを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導（2/2）

（1）本時の目標

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（A(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「相手が知らせたかったことは何ですか。どこを聞いてそう思いましたか」

【めあて】話し手が知らせたいことを聞き、感想や質問を返す。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「相手が知らせたかったことは何ですか。どこを聞いてそう思いましたか」

短い話から聞けたことを確かめる。もっと知りたいことを選ぶ。相手の返答を聞いて確かめる。聞く前後で分かったことを比べる。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

・友達が答えたことをもう一度確かめたい。

・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。

想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。

評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手が知らせたかったことは何ですか。どこを聞いてそう思いましたか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

